医療法人　円会
瀬口脳神経外科病院

まどか

第３号

病院理念

・私たちは、地域の皆様から信頼される病院づくりに勤めます
・私たちは、患者様のための心のこもった医療サービスを提供します
・私たちは、常に脳・脊髄疾患の専門病院として高度且つ最新の医療を提供します

特集　脳梗塞の新しい治療

撮影　中島一男

主な記事

●瀬口達也院長のご挨拶……2
●特集　脳梗塞の新しい治療…3・4
rt－PA静注療法について
●特定健診……4
●仕事場紹介……5・6
●第34回開院記念行事……7
●外来診察案内……8

ご挨拶

瀬口脳神経外科病院

院長　瀬口達也

当病院は昭和５３年に開院し、３０年以上、飯田下伊那地域で脳・脊髄疾患、とりわけ脳卒中（脳血管障害）治療に携わって参りました。開院以来、受診された患者さんに通し番号を付けておりますが、来年には１０万を超すと予想され、この間に多くの患者さんを診させていただいたことを実感いたします。

この３０年の間には病気の傾向も変化しており、当初は脳出血が多かったのですが、近年では脳梗塞患者が増える傾向にあります。また脳梗塞の治療も３０年前とは大きく変わり、命を救う治療から、最近ではいかに後遺症を残さず治療するかに重点を置く治療に変わってきております。その代表的な治療が rt-PA と言うお薬を使った治療です。rt-PA の点滴治療は詰まった血管を再開通させ、麻痺等の症状の軽減を目的とします。ただ、この治療には大前提があり、薬を使うことができる時間が発症から数時間と限られていることです。したがいまして、症状が出てからいかに早くこの治療ができる医療機関に連れて行くかが鍵となります。そのためにはこの脳梗塞という病気をみなさまがしっかりと理解をして、適切な判断をすることが重要となります。この治療には最近朗報があり、以前は発症３時間以内の使用と限られておりましたが、９月より 4.5 時間に延長になりました。これにより、より多くの患者さんがこの治療を受けることができる可能性が広がりました。　当院は今後もこの治療を念頭に置いた救急体制を維持していくと同時に、皆様の理解を少しでも高めていただくため、講習、講演会を実施いたしますので、ご希望の機関、団体がありましたらお気軽にお問い合わせください。

脳梗塞の新しい治療法
rt-PA（アルテプラーゼ）静注療法について

脳神経外科専門医　青山達郎

脳梗塞とは？

脳卒中には脳血管に血栓が詰まる「脳梗塞」、脳血管が切れる「脳出血」、脳血管にできたコブ（脳動脈瘤）が破れて出血する「くも膜下出血」の３つのタイプがあります。その中でも最も多いのが「脳梗塞」で約 70%を占めます。

これまでの脳梗塞の治療

2005 年 10 月に rt-PA 静注療法が日本でも行えるようになりましたが、それ以前は rt-PA 静注療法と比べると効果の弱い治療法しかありませんでした。それらは主に点滴治療で、大きく分けると２つの目的があります。

①抗血小板療法：血栓を作る働きを持つ血小板の機能を抑えて、血液の流れを改善する目的で投与します。

②脳保護療法：脳神経細胞の障害の進行を抑える目的で投与します。

その他、抗凝固療法や抗脳浮腫療法などがあり、患者さんの状態に応じて使い分けます。しかしいずれも脳梗塞再発防止や症状進行防止、合併症対策が目的であり、脳梗塞になってしまった脳を回復する効果はありません。

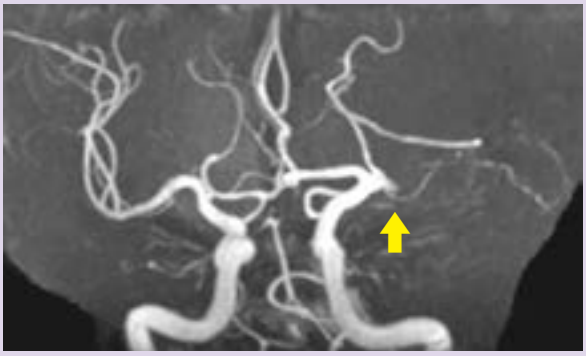
rt-PA（アルテプラーゼ）静注療法

では rt-PA 静注療法とはどのような治療法でしょうか？一言でいうと、脳血管に詰まった血栓を溶かしてしまう薬で、詰まった血管を短時間のうちに再開通することで脳梗塞から救うことのできる効果の高い治療法です。

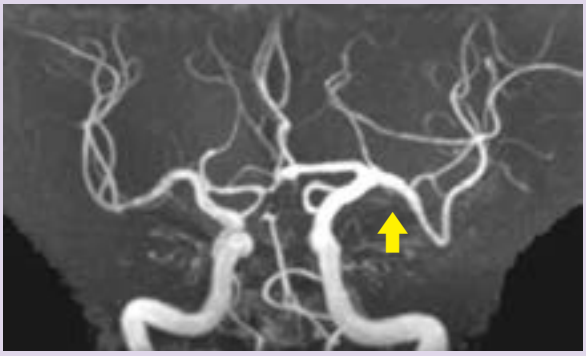
副作用についてはどうなのでしょうか？ rt-PA 静注療法で最大の副作用は出血です。特に脳内出血を起こす確率は、rt-PA 静注療法を行わない場合に比べて３～ 10 倍といわれており、このような出血合併症を防ぐため、治療に際し様々な条件が厳しく決められています。**2005 年発売当初は「発症３時間以内に治療を開始すること」が大前提でしたが、2012 年９月「発症 4.5 時間以内」まで使用可能となりました。**しかし診察や画像診断、血液検査などに要する時間を考えると、**遅くとも発症 3.5 時間以内に病院を受診**しなければ間に合いません。その他にも脳梗塞重症度や既往歴、血液検査などの条件を満たす必要があります。このように患者さんすべてが rt-PA 静注療法を受けられるわけではなく、治療を行っても血栓が溶けずに脳梗塞になってしまう患者さんもいます。しかし、従来の治療法に比べて後遺症が軽く済んだり、後遺症なく退院できる患者さんは確実に増え、rt-PA 静注療法の恩恵を受けているのは事実です。

当院で rt-PA 治療を行った症例を紹介

60 歳代の男性で突然言語障害と右運動麻痺が出現し、発症から 1 時間で救急搬送されました。MRI では太い血管（矢印）が詰まっていましたが、rt-PA 静注療法を行ったところ詰まった血管は再開通し、言語障害と右運動麻痺は改善し後遺症もなく退院されました。



rt-PA 静注療法前



rt-PA 静注療法後

このように rt-PA 静注療法は脳梗塞に対して非常に有効な治療法で、治療時間が早ければ早いほど効果が高いと言われています。しかし発症から時間が経つとともに出血などの合併症が増えることも分かっています。

脳梗塞を疑う症状が出たらすぐに専門病院を受診したり、救急車を呼ぶなど迅速な対応が必要です。

脳ドック・特定健診 実施しています！

「特定健診」とは、メタボリックシンドロームに着目した健康診断で、生活習慣病の予防、悪化を防ぐという目的があります。

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満に加え、高血糖、血圧高値、脂質異常といった生活習慣病をあわせ持っている状態のこと。一つ一つの異常が軽くても、いくつか重ね持つことで、動脈硬化が進み、脳卒中や心疾患などの重篤な病気を引き起こすことにつながります。

＊特定健診を受けるには・・・加入されている医療保険者または下記脳ドック室までご連絡ください。

＊特定健診実施日・・・毎週木曜日　午後 1 時 30 分～

＊脳ドックと特定健診を一緒に受けられます。その場合、脳ドックの費用がお安くなります。

詳しいことは脳ドック室へお問い合わせください。

尚、院長のご挨拶文にありますように当院医師等による脳卒中の治療や予防の講習、講演をご希望の方もこちらにお問い合わせください。

主任保健師　樫山直美

脳ドック室　直通電話　0265-24-7667

四階・五階病棟の紹介

まるで「なでしこジャパン」(ヤングならぬオールドなでしこ)を思わせる様なカリスマ的ボス【鹿児島出身の師長】を中心に 27 名のスタッフのまとまりが抜群なのが、病棟のカラーです。スタッフは年齢、出身地、個性も様々で、勉強会はもちろん、不定期頻繁…に開かれる懇親会でもチーム力を高めています。

脳神経外科は、日常生活で援助を必要とする患者様が多く、他職種との連携も特に重要な科であることから、職種間における強い連携力で 24 時間安心・安全な入院生活が送って頂ける様に努めています。

春 患者様のお花見会を行っています。毎年いろんな企画（水戸黄門の劇など）を考え、他部署の協力も得て、短い時間ではありますが患者様に少しでも癒しの時間が提供出来ればと活動しています。

冬 病院内がクリスマスムードとなり、たくさんのツリーが輝いています。患者様とともに、クリスマスソングを歌い、スタッフがハンドベル演奏をし、看護部長が、自慢ののどで独唱♪など出し物も毎年思考をこらし披露します。スタッフの手作りクリスマスカードのプレゼントもお楽しみ！

看護師　西尾ひろみ

入職４カ月のスタッフより

年齢不詳の新人です。患者様からよく耳にするのは、「ここの職員は皆親切で感じが良い」という言葉です。医師の回診から始まり、退院まで携わる全てのスタッフの丁寧な対応と連携に、患者様優位の看護の重要性を感じています。元気になりたいと頑張る患者様の姿に、幼少期クモ膜下出血で他界した母も今なら助かったかもしれないと母の姿を重ねながら、患者様の回復に向かう姿に喜びを感じています。これからも「看護をさせていただく」という気持ちを大切に頑張りたいと思います。

看護師　森ひとみ

検査科紹介

当検査科は現在３名（女性２名、男性１名）で業務に従事しております。業務内容は外来の患者様の採血に始まり、主に生化学検査、血液検査、免疫学検査、一般検査、生理機能検査等の各種検査を実施しております。
特に生理機能検査では、頸動脈・下肢動静脈・経頭蓋超音波検査、心電図、血圧脈波、脳波、聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位、末梢神経伝導検査の他、脳神経外科手術における術中モニタリングのセッティング・記録・評価を行い、良好な手術成績を得ています。
検体検査では、毎日行う内部精度管理の他、定期的に外部精度管理事業へ参加し、精度の高い検査結果を提供しています。院内検査であれば 30 ～ 40 分ほどで結果報告できますので、その日の内に結果を聞くことができます。
“正確かつ迅速”をモットーに、患者様の目線にたち、笑顔で会話をしながら、日々の業務に励んでおります。

生化学の自動分析器の前で加藤洋子技師

脳波検査器の前で中島裕子技師

超音波検査装置の前で川手応記技師

薬剤科紹介

今回は薬剤科の紹介をさせていただきます。
右の写真は内服薬の棚の写真です。
当院では約 200 種類ほどの内服薬を取り扱っています。脳神経の専門病院なので取扱い薬品数は比較的少なめで、主に脳梗塞予防の血液の流れを良くする抗血小板凝集剤やけいれん等を抑えるてんかんの薬が多く出ています。また、頭痛で来院される患者さんも多いため一般的な鎮痛剤の他に片頭痛薬も多く出ています。脳血管疾患の予防のための降圧剤や高脂血症治療剤、また糖尿病の治療剤などの薬も数種類取り扱っています。

左上の写真は錠剤や粉薬を袋詰めにする機械です。内服薬の数が多く服薬困難な方や粉薬の方、入院中の方にはこの機械で左下の写真のように袋詰めにして朝食後・昼食後・夕食後などの用法ごとに１つにまとめて飲みやすくしています。午前中の外来の混雑時にはほぼフル稼働で動かしています。飲み忘れを防止できるという利点がある反面、一手間かかるためお待たせしてしまう方が多くなってしまうのが難点です。

薬剤師　杉木雄一

第 34 回開院記念行事

本年の 6 月 6 日に瀬口脳神経外科病院は開院 34 周年を迎えました。当院では脳卒中治療・予防の啓蒙活動として一般公開講座を進めてまいりました。今年は開院記念日に合わせ、院長講演を中心とする開院記念行事を実施する運びとなりました。

中心となる院長講演では「脳卒中の予防と脳ドック」と題しまして、脳卒中の原因や最前線治療を紹介し、予防の可能性について講演が行われました。また予防の一環として、脳ドックの受診を推奨いたしました。脳卒中とは‘卒然として中（あた）る，ことから、前触れもなく急に発症するとされています。しかし、脳ドックを受診することで、脳卒中を引き起こしやすい危険因子を発見し、より日常生活における脳卒中予防に役立てることができると講演されました。

また今年は看護科・リハビリテーション科・脳ドック担当の各部署より、各部署の特色を活かして、掲示物を展示させていただきました。看護科は脳卒中の概要と治療について、リハビリテーション科は自宅でできるリハビリ体操、脳ドック担当部署は脳ドックの概要を展示しました。

そして今回の開院記念日におきましては、昨年 10 月に他界されました、瀬口脳神経外科病院の創設者であります瀬口喬士前理事長を偲んで、前理事長の生前の活躍を写真とともにスライドショーとして外来診察中より放映させていただきました。

開院記念行事として実施するのは今年が初めてではありますが、多くの方にご参加いただき、盛大に開催することができました。

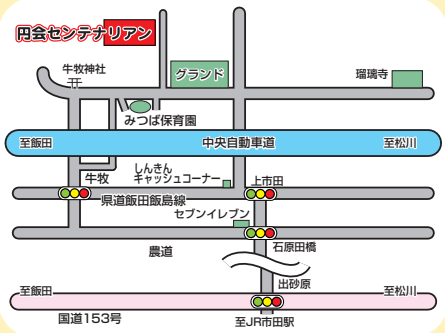
開院記念行事委員長　社会福祉士　佐々木　史光

関連施設の紹介

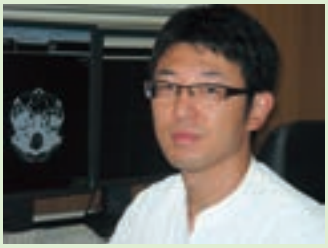
医療法人円会　老人保健施設円会センテナリアン

中央アルプスの麓にあって、南アルプス連峰を遠望できるおよそ 5,000 坪という広々とした敷地内に、ゆとりある生活空間を設けました。この中に医師、看護師、介護職員、支援相談員、管理栄養士、作業療法士、理学療法士を配置し、医療と福祉の両面から様々な支援をさせていただきます。

高森町牛牧 2468 － 4　電話　0265 － 34 － 2525



先生紹介



黒岩正文医師

初めまして。今年 10 月に瀬口脳神経外科病院へ赴任してきました。地域の皆様から頼りにされるような医師を目指して頑張りたいと思います。よろしくお願いします。
脳神経外科専門医

外来診療時間

受付時間	月曜日～金曜日	午前 8 時 30 分から午前 11 時 30 分まで
	土曜日	午前 8 時 30 分から午前 11 時まで

休診日

日曜日、祝祭日、第 2・4 土曜日、第 1・3・5 土曜日午後、年末年始、盆休

担当医

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	瀬口達也 院長	村田貴弘 （信大脳外科 助教）	瀬口達也 院長	中村昭則 （信大神経内科 准教授）	瀬口達也 院長	銭坂英生 又は 黒岩正文 藤井雄
	黒岩正文 10 時から	藤井雄 10 時から	黒岩正文 10 時から	青山達郎 10 時から	黒岩正文 10 時から	

担当医は変更になることがありますので、電話にてお問い合わせください

但し急患は 365 日 24 時間受け付けいたします

☎ 0265-24-6655

編集後記

長い残暑も終わり、秋の気配を感じられる今日この頃。野山も色づきはじめ歩くことが楽しくなる季節になりました。
病院広報誌として3作目となりましたが、今後も当院の情報を皆様にお知らせしながら、信頼される病院づくりに努めてまいります。

病院だより　第３号

発　　行■医療法人円会
　　瀬口脳神経外科病院
住　　所■長野県飯田市上郷黒田218番2
発 行 日■2012年10月
代表電話■0265-24-6655
問い合わせ先■医療支援部　宮澤明啓